

第2の活動方策は、直ちに着手できるものもあり、また当面は議論のたたき台となるものもある。しかし、それらが丹後を巡り、各地で、各分野で新しい芽を出し、伸びていくと、

地域では、女性が中心の現在のボランティアに男性も加わり、配食サービスをはじめ、日常生活のサポートの範囲が広がる。また、ITを活用した高齢者の生活状況の確認や相互の連絡・会話がモデル的に進む。地域のグループを支援し、またそれらでは出来ないサービスをカバーするNPO等の活動が次第に定着していく。各地の伝統行事やイベントを支える地域ボランティアのネットワークが動き始め、更に域外から丹後での活動の場を利用する若手・新進の文化・創作グループと地元のグループとの交流などが始まる。

半島とその周辺一帯には、ダイナミックな自然と美しい景観、不思議さとロマン、静けさとセラピーなど様々な魅力があることが知られていく。景観を楽しみ地理を学ぶ、大陸との交流をたどり歴史、伝説と出会う、農林漁業にチャレンジし食材を学ぶ、織物の精緻な技術とその展開を知る、山里・清流・漁村など日本の原風景を歩く、自然の中で学び冒険するなど、それらを楽しむ様々なコースが形成され、また全体を包み込む海と森林と温泉を生かしたリフレッシュエリアとしての魅力が開いていく。半島の中を東と西から人々が回遊し、海外からのモニターツアーも行われる。

農業・畜産業・林業・漁業での新たな展開、織物や機械金属における意欲的な活動のネットワーク、観光や自然エネルギー、空スペースやITを活用したビジネスの試みなどが地域の先発的な活動となり力となっていく。基幹的な交通網や安全・安心に対する基盤と組織は広がっていく。

丹後の明日がこのような方向に動いていくのは、何よりも丹後の中に人々の活発な交流があり、各地に分散する知恵と経験と情報がつながれ、活動力が結び合わされる時である。また域外の人々との交流が広がり、新たな工夫と機会が加えられる時である。海に進み出た丹後半島そのものが、持てるものを誰かが生かせる、丹後は今日も活動していることを示している。

